

平成27年度スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

受託者名	大阪府	実施校名	大阪府立農芸高等学校
学校のホームページアドレス	http://www.osaka-c.ed.jp/nogei/		

1 取組テーマ（中心となるテーマ： 食文化 ）

「なにわの伝統野菜」を活用した食育の推進による健康増進及び食文化の継承・発展

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置人数	0人
配置されていない場合の対応状況	堺市立美原西小学校の栄養教諭と連携して事業を実施している。

3 推進委員会の構成

委員長	植田 福裕	羽衣国際大学教授
委員	今野 正章	生産者代表
委員	三木 大輔	堺市教育委員会主任指導主事
委員	田中 圭一	堺市立美原西中学校長
委員	山田 純二	堺市立美原西小学校長
委員	田村 貴美子	堺市立美原西小学校栄養教諭
委員	杉田 晃彦	大阪府立農芸高等学校長
委員	山本 寛	大阪府立農芸高等学校教諭
委員	宮坂 公美	大阪府立農芸高等学校養護教諭
委員	田中 健吾	大阪府立農芸高等学校 PTA 会長
委員	中塚 武司	大阪府環境農林水産部農政室推進課地産地消推進補佐
委員	植山 勝秀	大阪府教育委員会教育振興室保健体育課長
委員	田中 真樹	大阪府教育委員会教育振興室保健体育課主任指導主事

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
大阪府立環境農林水産総合研究所 食とみどり技術センター	「なにわの伝統野菜」の種子の提供・栽培指導
伝統野菜研究所	「なにわの伝統野菜」の栽培技術や伝統料理の指導
大醬株式会社	醤油の生産等についての工場見学・授業
羽衣国際大学	食育講演・共同研究・調査協力・出前授業等
辻調理師専門学校	調理技術の講習・レシピ等の共同研究
堺市立美原西小学校 堺市立美原西中学校	食品加工体験、ときめき農業体験、食育講座
河内長野市立美加の台中学校	合鴨水稲同時作によるイネの栽培

5 実践内容

事業目標

- ①基本的な生活習慣の確立による肥満防止と健康増進
- ②農業高校を核とした小・中学校との連携による食育実践プログラムの構築
- ③大阪の食文化や伝統料理への関心の向上

評価指標

- ①BMIの低下（25以上を25未満に）
- ②遅刻総数の減少（早起きする生活の確立）
- ③朝食喫食率の向上
- ④農業体験や食育活動への興味・関心の向上
- ⑤食や農に関する意識向上
- ⑥大阪の食文化や伝統料理への関心の向上

評価方法

6月・12月に①～⑥を実施する。

- ①身体測定し、BMIの変化を分析する。
- ②遅刻総数の変化を分析する。
- ③アンケートを実施し、朝食喫食率の変化を分析する。
- ④アンケートを実施し、農業体験支援等の食育活動への意欲の変化を分析する。
- ⑤アンケートを実施し、食や農に関する意識の変化を分析する。
- ⑥アンケートを実施し、大阪の食文化や伝統料理への関心の変化を分析する。

アンケートには、「食品を購入するときに栄養成分表示を確認する」「生活習慣病予防対策のために意識して適切な食事、運動等を継続的に実践している」「栄養のバランス(主食・主菜・副菜がそろっていること)を考えて食事をとっている」などの項目を盛り込み、健康増進のための意識向上を検証する。

また、アンケートの実施や分析には連携大学や関係機関の指導助言のもと、生徒が主体的に関わることで、生徒の実践意欲の向上へとつなげる。

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

①基本的な生活習慣の確立による肥満防止と健康増進

栄養教諭や大学教授による食育の講義・講演等を実施し、生徒が校内に設置した「セルフチェックコーナー」でBMIや血圧などの健康チェックを行い、配布する健康手帳へ継続して記録することで、食生活に対する意識が向上し、BMIの低下（25以上を25未満に）、遅刻総数の減少、朝食喫食率の向上をめざす。そのために、6月・12月にBMI、遅刻数、朝食喫食率について調査し、取り組みの効果について検証する。

②農業高校を核とした小・中学校との連携による食育実践プログラムの構築

栄養教諭や連携機関とともに、実践校生徒が主体となる小・中学校の児童・生徒への体験活動支援や食育講座の内容を検討し、実施する。

6月・12月にアンケートを実施し、実践校生徒の食育活動への意欲向上について検証し、実践校と小・中学校の連携による活動を「食育実践プログラム」としてまとめる。成果物は府内公立小・中・高等学校及び支援学校に配布し農業体験活動等による食育の成果の普及を図る。

③大阪の食文化や伝統料理への関心の向上

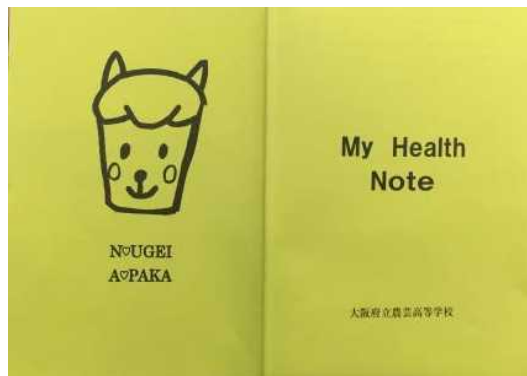
大阪の食文化の保護・継承のために、「なにわの伝統野菜」の栽培技術や伝統料理の調理方法を学び、伝統野菜を使ったレシピを開発し、HP等により公開する。また、学校給食等への活用を図り、①②の取り組みについても、「なにわの伝統野菜」を活用することにより、大阪の食文化や伝統料理への関心の向上の向上をめざす。そのために、6月・12月にアンケートを実施し、検証する。

実践内容

○具体的な取組

① 基本的な生活習慣の確立による肥満防止と健康増進

- ・健康手帳の活用（起床就寝時間・食事内容・運動内容・血圧・BMI等を記録）
- ・セルフチェックコーナーの設置（生徒が随時、BMI・血圧をチェック）
- ・生徒保健委員会作成の食育だより（3食きちんとした食事、規則正しい生活習慣の重要性について等）の配付・掲示（年4回）
- ・生徒作成ポスター（生活習慣、食の重要性、大阪の食文化）の掲示
- ・栄養教諭による食育授業の実施（10月）
- ・連携大学教授による食育講演会の実施（11月）



月	日	曜日	天候	月	日	曜日	天候
起床時間	:	:	:	起床時間	:	:	:
就寝時間	:	:	:	就寝時間	:	:	:
朝食	内容		飲み物	朝食	内容		飲み物
昼食	内容		飲み物	昼食	内容		飲み物
夕食	内容		飲み物	夕食	内容		飲み物
運動内容・本日の体調				運動内容・本日の体調			
体重量	kg	血圧(最高)	mmHg	体重量	kg	血圧(最高)	mmHg
		(最低)				(最低)	

日時、起床、就寝時刻を記録しよう。
朝、昼、夕の食事内容を記録しよう。
食事以外に飲んだものは「飲み物」、食べたものは「間食」として記録しよう。
運動は、体育の授業や運動クラブ等、散歩も記録しよう。
本日の体調は良い・まあまあ・悪い等状態を記録しよう。
毎日体重、血圧は決まった時間に測り、記録しよう。

② 農業高校を核とした小・中学校との連携による食育実践プログラムの構築

・農業体験の実施

- 6月 合鴨農法による稲の栽培（河内長野市立美加の台中学校）
田植え（金岡まちづくり協議会）
- 9月 大根、白菜の栽培（堺市立美原西小学校）
- 1月 屠殺解体実習見学会の事前学習会（河内長野市立美加の台中学校）



・食品加工体験の実施

7月 トマトケチャップ作り（堺市立美原西中学校）

12月 みそ作り（堺市立美原西小学校）



③ 大阪の食文化や伝統料理への関心の向上

・連携機関の協力による学習会・講習会

7月 醤油作り学習会（工場見学・講義）

8月 「なにわの伝統野菜」調理講習会①（日本料理）

9月 「なにわの伝統野菜」調理講習会②（西洋料理）

11月 「なにわの伝統野菜」調理講習会③（日本料理）

・大阪府立環境農林水産総合研究所による「なにわの伝統野菜」栽培講習会

・「なにわの伝統野菜」漬物講習会

・「なにわの伝統野菜」創作パンの制作（全国高校生パンコンテスト応募）



④ その他

・「おおさか食育フェスタ2015」出展

・学校行事における生徒による食育発信（農芸祭・収穫感謝祭）

・先進地域視察



6 成果

ア 基本的生活習慣の確立による肥満防止と健康増進

・取組みの結果、肥満防止にまでは至らなかったが、遅刻件数が前年度 3455 件から今年度 1797 件（4 月～12 月）に減少し、基本的生活習慣に改善が見られた。

イ 小・中学校との連携による食育実践プログラムの構築

・小・中学校との連携により、本校生徒の食や農についての関心は 52%から 70%に向上し、食育活動への意欲は 42%から 48%へとわずかながらも向上した。

・連携小学校における学校給食のみそ汁の残食率が、みそ作りを体験した 5 年生では 0.7%と校内で最も低かった。中学生に実施したアンケートでは、全員が体験活動や食への関心について肯定的な回答をした。これらのことから、体験活動の実施により小・中学生の食への関心の向上に貢献できたと考える。

ウ 大阪の食文化や伝統料理への関心の向上

・「なにわの伝統野菜」の認知度については、当初 28%であったが、取組み後、野菜の名前を提示して認知度を調査した結果、13 種類のうち 6 種類について、約 40%の生徒が認知するに至っている。

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

(イベント)

・ 8 月 19 日 「おおさか食育フェスタ」 出展

・ 11 月 8 日 農芸祭での展示

(掲示物・配付物)

・ 生徒が発行した「食育だより」の掲示・配付 (学校HP)

・ <http://www.osaka-c.ed.jp/nogei/>



8 今後の課題

ア 基本的生活習慣の確立による肥満防止と健康増進

・肥満防止については、健康手帳の活用が有効であると考えているが、継続して記録することに課題がある。生徒の自主性に任せず授業や保健指導で活用するなど効果的な活用をしていきたい。

イ 小・中学校との連携による食育実践プログラムの構築

・食育実践プログラムの構築までには至らず、今後も取組みの成果を検証しながら実践を積み重ねていくことが必要である。関連した教科の学習として体験活動を実施すると、より理解が深まると考えられることから、早い段階で計画することにより活動内容の充実を図ってきたい。

・食育活動への意欲の向上は、まだ一部の生徒に限られている。今後、より多くの生徒が小・中学校との連携に関わるような工夫をしていきたい。

ウ 大阪の食文化や伝統料理への関心の向上

・「なにわの伝統野菜」は、まだ半数以上の生徒に認知されていない状況である。レシピを発信したり商品化したりするなど今年度の取組みを発展させていきたい。